学校番号	309

令和８年度　理科

教科	理科	科目	化学演習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	化学　（数研出版）						
副教材等	チェック＆演習　化学　（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

化学基礎・化学の内容についてより深化させるため、共通テストに対応した問題集を使用し、教科書を用いた授業では不足しがちな問題演習に取り組む。問題を解くためには、化学の知識の確認はもちろん、解法をノートにまとめ主体的に取り組む姿勢が重要になる。

2　学習の到達目標

化学の事物・現象に対して、興味・関心を高め、主体的に問題を解決しようとする意欲を高める。理工系進学を意識して、より高い次元の学問を習得するための準備をするとともに、大学等の進学を意識した問題演習にも積極的に取り組んで、問題を読み解く能力を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	複合的な内容を含む問題にも既習知識を活用し取り組むことができているか。 化学の教科書で学習した知識を活用し、さらに数的処理を応用し問題演習に取り組めているか。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出し考えを的確に表現しているか。	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けているか。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	物質の状態	化学基礎の復習 結晶の構造 物質の三態と状態変化・気体 溶液	a:物質の三態(固体・液体・気体)について、それぞれの性質を理解し、状態変化について化学的に説明できる。 b:物質の状態に関する諸法則を理解し、公式やグラフを用いて考察できる。 c:物質の状態に関する諸法則に関心をもち、物質の体積、圧力、温度、物質量にはそれぞれどのような関係が成り立つのかを、日常生活と関連付けて化学的に考えることができる。	定期考査	定期考査	提出ノート
	物質の変化	化学反応と熱・光 電池と電気分解 化学反応の速さとしくみ 化学平衡	a:物質の変化について、化学反応式を用いて表すことができ、変化量について量的関係を用いて理解できる。 b:物質の変化に関する現象を、公式やグラフを用いて考察できる。 c:物質の変化に関心をもち、日常生活と関連付けて化学的に考えることができる。	定期考査	定期考査	提出ノート
2学期	無機物質	非金属元素とその化合物 金属元素とその化合物	a:非金属元素や金属元素の単体や化合物の性質を理解し、生成方法について化学反応式を用いて表すことができる。 b:金属イオンの系統分析の考え方を用いて、複数の金属イオンが存在する水溶液から目的の金属を分離、確認することができる。 c: 金属イオンの分離や確認に興味をもつ。	定期考査	定期考査	提出ノート

	有機化合物	有機化合物の特徴と炭化水素 アルコールと関連化合物 芳香族化合物	a:有機化合物の構造式、名称、分類、生成方法、反応性について理解する。 b:反応性や検出法、酸の強さなどに基づいて、有機化合物を分類することができる。 c:有機化合物について興味をもち、日常生活と関連付けて化学的に考えることができる。	定期考査	定期考査	提出ノート
	高分子化合物	天然有機化合物 合成高分子化合物	a:高分子化合物の構造式、名称、分類、生成方法、反応性について理解する。 b:高分子化合物の重合の方法や分子量、特徴について判断することができる。 アミノ酸の検出方法をふまえ、タンパク質に含まれるアミノ酸を判断することができる。 c:高分子化合物の特徴やその構造、反応性について興味をもち、日常生活と関連付けて化学的に考えることができる。	定期考査	定期考査	提出ノート
3学期	実践演習	実践演習	a:問題に対し、既習の知識を活用し、意図を理解し的確に解答できる。 b:問題に対し解法の過程を考察し、ノートにまとめることができる。 c:問題に対して関心を持ち、意欲的に取り組む態度が見られる。	提出物	提出物	授業の行動観察や発問に対する応答

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度